

ゆっくり走ろう北海道

No.186 公益社団法人 北海道交通安全推進委員会



飲酒運転を
 しない させない 許さない
 約束だべや
 どうして見逃さない!
 道民みんなでゼロを実現
 ～7月13日は飲酒運転根絶の日～

【交通安全対策七者連絡会議】
 北海道 北海道警察長官、北海道警視 札幌市、公益社団法人北海道交通安全推進委員会
 一般社団法人北海道交通安全協会、一般社団法人北海道安全運転管理者協会



「飲酒運転根絶の日」決起大会



会長就任ご挨拶

公益社団法人 北海道交通安全推進委員会

会長 真弓 明彦

この度、令和6年度定時社員総会及び第2回理事会におきまして、勝木紀昭会長の後任として会長に就任いたしました。会員の皆様をはじめ、関係機関、地域の皆様のご支援、ご協力を賜り、私たち道民の願いである交通事故のない安全で安心な北海道の実現に向け、努力をまいります。

紐解きますと、当委員会は昭和37年（1962年）、車の社会の急速な進展が生み出した「交通戦争」といわれた時代に、スピードの出しすぎや積雪寒冷地のスリップなど、北海道特有の交通事故をなくすため、行政と経済界、関係団体が立ち上がり設立した団体です。

交通事故死者数の最多は昭和46年（1971年）の889名。昨年は131名となりました。この間、法改正や車の性能の向上、医療の高度化、地域の交通安全運動などにより、社会は大きく変わりましたが、未だに悲惨な事故や死傷者が絶えません。

交通事故の形態は時代とともに変化を続けています。飲酒運転、スマホやイヤホンによる「ながら運転（歩き）」、加害者にも被害者にもなる高齢者の事故、こどもが犠牲になる事故、危険な自転車走行などが顕在化し、私たちは常に新しい視点での取組も求められています。

今年、2014年夏に小樽で発生した悲惨な飲酒ひき逃げ事故から10年を迎えました。未だになくならない飲酒運転にも本気で向き合っていかなければなりません。当委員会は、179市町村と76の企業・団体、60の賛助会員で構成されています。今後とも、皆様それぞれのお力をお借りし、「みんなでつくる交通安全の輪」を一層拡大するなど、心が通いあう、思いやりあふれる社会を北海道全体で作りあげてまいりたいと考えます。

むしろ、皆様のますますのご発展とご健勝をご祈念申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」社会の実現に向けて

2014年7月13日、小樽市の海水浴場からの帰り道に歩行者4人が飲酒運転の車にひき逃げされ、3人が死亡、1人が重傷という痛ましい事件が起きました。

今年はその悲惨な事件から10年。この事件は、絶対に風化させては行かない、決して忘れてはなりません。7月13日は「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」において、「飲酒運転根絶の日」とされています。道民みんなで北海道から飲酒運転をなくしていくという強い思いを共有していくため、今年も全道各地において決起大会や啓発活動が展開されました。

札幌市内では、7月12日、共済ホールにて、令和6年「飲酒運転根絶の日決起大会」を開催しました。開催に先立ち、交通事故により尊い生命を奪われた方々に黙とうを捧げた後、主催者を代表して、鈴木直道北海道知事、伊藤泰充北海道警察本部長から、また、来賓



富原亮道会議長 伊藤泰充道警本部長 鈴木直道知事

を代表して、富原亮北海道会議長様からご挨拶をいただきました。

続いてのプログラムとして、「令和5年 飲酒運転根絶！高校生メッセーJコンクール」の入賞4作品を紹介した後、北海道芸術高等学校札幌サテライトキャンパスの生徒の皆さんが制作した、飲酒運転根絶ドラマ「もう一度、君と」を上映しました。ドラマは、飲酒運転がもたらす悲惨さや、飲酒運転を根絶することを強く願う、訴えかける内容となっており、北海道のYouTubeチャンネルで公開しています。上映後、生徒を代表して吉田誠弥さんと河野雛華さんに、ドラマ制作の感想などを伺い「改めて飲酒運転の危険性を考え、ドラマを通して被害者が減ってくれば嬉しい」と話してくれました。

続いて、飲酒運転事故被害者の体験談をフリーアナウンサーの国井美佐さんにVTRでお話いただきました。国井さんは、昨年7月に家族でタクシーに乗車中、飲酒運転の車が衝突され家族全員が重傷を負う事故に遭われました。その体験から、交通事故の怖さや被害者だけでなく加害者や周囲の人も辛い思いをする



動画はこちらから

語っていただきました。次に、「令和5年度北海道から飲酒運転を根絶！学生PR動画コンテスト」の入賞4作品を上映し、その後、道内事業者の飲酒運転根絶に関する取組事例をご紹介します。

まずは、株式会社エフエム北海道編成制作部の高山秀毅調査役にAIR-GFM北海道での取組をご紹介します。

10年前から飲酒運転撲滅に向け、SDD(STOP! DRUNK DRIVING)プロジェクト北海道に取り組みされており、6月13日からは、鈴木直道北海道知事や伊藤泰充北海道警察本部長の飲酒運転根絶にむけたメッセージを番組の合間に流すなど、「北海道」をあげての「飲酒運転ゼロ」を目指し取り組まれております。

また、全国の小・中学生から募集したSDD全国子ども書道コンクールの作品をご紹介します。

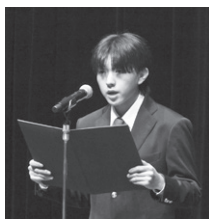
続いて、キリンビール株式会社北海道統括本部の小西敏雄本部長に、キリングループ全体で取り組んでいる飲酒運転根絶に向けた取組についてご紹介いただきました。ハンドルキーパー運動支援や商品パッケージでの啓発、ホームページ



やSNSを通じて、お酒との正しい付き合い方や飲酒運転がいかに悲惨なのかを伝えるなど、「酒類メーカーとしての責任を果たす」と力強くお話しいただきました。そして全国共済農業協同組合連合会北海道本部の竹島史剛普及部長には、各年代に向けた交通安全教室の開催など、交通事故のない社会をめざして取り組んでいるとお話いただきました。

飲酒運転根絶に向けた活動として飲酒運転根絶呼びかけ「ウチワ」の寄贈や全道の小・中学生交通安全ポスターコンクールの開催などに取り組まれております。最後に飲酒運転根絶ドラマに出演した、北海道芸術高等学校札幌サテライトキャンパスを代表して吉田誠弥さんに飲酒運転根絶メッセージと、道民宣言をしていただき、飲酒運転を根絶することを改めて誓い合い決起大会を終了しました。

来年は、2015年に砂川市で起きた一家5人が死傷した事故から10年になります。この悲惨な事故もまた飲酒運転が原因でした。北海道から飲酒運転を根絶するために「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」をこれからも訴えていきます。



吉田誠弥さん



飲酒運転根絶の日街頭啓発 および夏の交通安全運動を実施

飲酒運転根絶の日の7月13日、交通安全対策七者連絡会議が主催し、関係機関の協力のもと、すすきの交差点で街頭啓発を行いました。

歩行者に啓発品を配布したほか、飲食店を訪問し飲酒運転根絶ポスターを手渡しながら飲酒運転根絶の徹底への協力をお願いしました。また、道内各地域でも旗の波運動などの街頭啓発を行い、道民一人一人が交通安全意識を高めるため、飲酒運転がなくなるよう取り組んでいきます。

そして、7月13日から22日までの「夏の交通安全運動」では、ドライバーや歩行者、自転車利用者に、「飲酒運転の根絶」、「スピードダウン」、「自転車乗車用ヘルメット着用」など交通事故防止に向けた街頭啓発を道庁東門前等で行いました。

また、7月12日に、「飲酒運転根絶の日決起大会」終了後、共済ホール前にて夏の交通安全運動「セーフティコール」を行い、飲酒運転の根絶や安全運転を呼びかけました。



飲酒運転根絶！高校生メッセージコンクール募集中！

「令和6年 飲酒運転根絶！高校生メッセージコンクール」の募集を開始しました。

未だに少なくならない飲酒運転。北海道から飲酒運転を根絶するため、この願いを道民みんなで実現するため、これからドライバーになる高校生から、飲酒運転根絶のメッセージ（100文字程度）を募集しています。

メッセージは10月31日まで。入賞作品は年末年始の啓発活動などに活用します。



詳しくはこちらから



令和5年度北海道から飲酒運転を根絶！「学生PR動画コンテスト」審査結果

●最優秀賞作品

北海道教育大学 岩見沢校
アートプロジェクト研究室
『しかるくんのお散歩』

●優秀賞作品

北翔大学 Jグループ
『飲酒運転やめようアニメ』

●佳作

藤女子大学放送研究会
『あの時、とまっていれば…』

白井 実咲さん
（北海道芸術デザイン専門学校）
『軽い気持ちだったのに』

若々しい視点からの約30秒の動画で、道庁のロビーやガソリンスタンドのデジタルサイネージなどで配信され、研修会でも活用されています。北海道から飲酒運転を根絶するため、これらの動画をご活用ください。

【最優秀賞作品】



入賞作品はこちらから

飲酒運転根絶宣言店登録制度 「ぞくぞくと増加中」

道と当委員会では、飲酒運転根絶に関する取組を宣言する飲食店や酒類販売店等を登録しています。

道内各地で続々と宣言店が増え、「みんなで飲酒運転ゼロをめざす」機運がさらに広がっています。引き続き募集中です。



登録店等はこちらから

令和5年度飲酒運転根絶研修会

飲酒運転根絶の活動に必要な知識等に精通した人材を育成するため、市町村の交通安全担当職員、推進員、指導員等を対象に、全道14ヶ所（総合）振興局管内）では研修会を開催しています。

道警や当委員会職員の講演など、地域の実情に即した研修を通じて、知識の向上や今後の啓発活動における情報の提供を行いました。本年度も各地域で研修会を開催してまいります。



石狩振興局で開催した研修会

春の全国交通安全運動 街頭啓発

4月6日から15日までの10日間、春の全国交通安全運動の一環として、JR札幌駅周辺や赤れんがテラス前等で、交通安全対策七者連絡会議が主体となり、交通安全のほり旗などを掲げるとともに、広報啓発CDを流し、通過車両や歩行者に交通安全を呼びかけました。

また、4月5日には、道庁赤れんが庁舎前で、「道民の集い」を開催し、交通安全メッセージの呼びかけや、パトカー、白バイ隊の出動セレモニーを実施した後、黄色い旗の波街頭啓発を行いました。



伊藤有希さん

鈴木直道知事

当日、ゲストとして土屋ホームスキー部に所属し、スキージャンプで活躍中の伊藤有希さんが応援に駆けつけてくれ、スキージャンプと交通安全を織り交ぜながら「長距離運

時のこまめな休憩の大切さ」や、「大切な仲間」に飲酒運転をさせないという決意が大事」そして「自転車に乗る時はヘルメットを着用すること」が自分の命を守ってくれる」と道民に呼びかけていただき、その後、歩行者に啓発品を配布していただきました。

交通事故死ゼロを目指す日及び サイクルセーフティキャンペーン開始式

4月10日、札幌駅南口広場で「交通事故死ゼロを目指す日」及び「サイクルセーフティキャンペーン」開始式による街頭啓発を実施し、飲酒運転の防止や、自転車ヘルメットの着用など、交通ルールの遵守を呼びかけました。

啓発には、道警マスコットキャラクターのほくとくんやハンドルキーパーくん、札幌市西区のアイドルTeamくれれっ娘！のメンバーが参加し、歩行者に交通安全のチラシやグッズを手渡しました。



みんなでつくる「交通安全の輪」 企業・団体の取組事例

北海道から交通事故及び飲酒運転「ゼロ」を目指し、様々な業界の皆様と連携しながら、大きな「交通安全の輪」が生まれるよう、当委員会ホームページでは、企業・団体等の交通安全活動や社会貢献活動への取組を紹介しています。皆様の活動の参考にしてください。



リボンちゃんから小学1年生へ

初めて迎える夏休みを安全に楽しく！と、ポッカサップロ北海道株式会社様が株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメント様、株式会社コンサドール様、当委員会とタイアップし、「守ってね。交通ルール」とのメッセージを入れた暗闇で反射するリフレクターのキーホルダーを制作し、全道179市町村の小学1年生合計約3万4千人にプレゼントしていただきました。

同じく小学1年生のリボンちゃんから、一人一人に「みんなの交通安全を願う」お手紙も贈られました。



ハンドサインでストップ運動

道警では、信号機が設置されていない横断歩道を渡る時に、歩行者とドライバーが互いに意思疎通を図る横断方法を実践し、歩行者被害の重大事故を抑制するため「ハンドサインでストップ運動」を実施しています。

道内における過去5年間の歩行者交通事故死者数(206名)のうち、約6割が道路横断中によるものです。横断歩道を横断しようとしている歩行者がいるにもかかわらず、一時停止をしない車両も多く、交通事故にも繋がりがありません。

この運動では、歩行者が横断歩道を渡る時は、左右の安全を確認し、手を上げるなどの合図(ハンドサイン)をして、横断することをドライバーに明確に伝えてから横断すること。ドライバーは、道路上のダイヤモンドマークを見たら、横断歩道の手前で停止できるように安全な速度で走り、横断しようとしている歩行者がいる時は必ず止まり、歩行者に対して「お先にどうぞ」と手で合図(ハンドサイン)をすること。などが掲げられています。

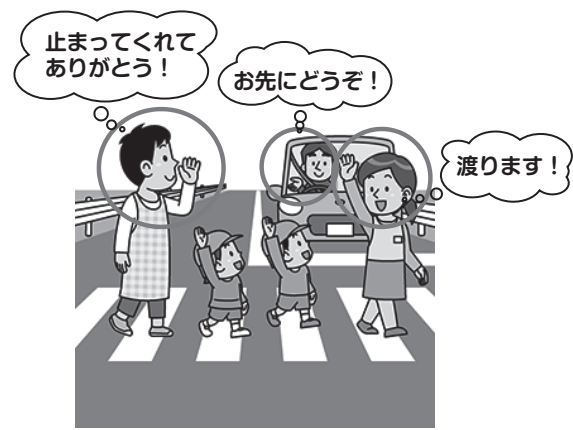
歩行者とドライバーがお互いに思いやりを持ち、ハンドサインを出すことで、横断歩道における悲惨な交通事故の防止につながるよう、道警及び当委員会をはじめ各関係機関が連携し、交通安全啓発活動やイベント等で「ハンドサインでストップ運

この啓発には、4月に道警の交通安全インフルエンサーに任命されたアンジェラ佐藤さんにもご参加いただき、自転車



自転車月間街頭啓発

5月2日、札幌駅駐輪場前で、道、道警ほか関係機関・団体とともに自転車安全利用街頭啓発を行いました。



動」を全道展開してまいります。

自転車にはヘルメットを!



- 【自転車安全利用五則】**
- ①車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者を優先
 - ②交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
 - ③夜間はライトを点灯
 - ④飲酒運転は禁止
 - ⑤ヘルメットを着用

利用者が増えるゴールデンウィークにあわせ、自転車利用に関する基本的な交通ルールの周知やヘルメットの着用などを呼びかけました。

道路交通法の改正により、自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となつてから4月で1年となりましたが、昨年7月に行われた全国調査では、道内での着用率は6・4%と、全国平均の13・5%を大きく下回り、都道府県別で39番目という低い結果でした。

また、過去5年間で自転車乗車中の交通事故で亡くなられた方の約5割が頭部に致命傷を負っており、ヘルメット非着用者の致死率は着用者と比較して約1・9倍も高い結果となりました。

自転車による交通事故の被害を軽減するためにも、ヘルメットを着用しましょう。

当委員会では、研修に活用いただけるDVDを取り揃えています。

交通安全DVDを貸し出しています



なお、7月9日には、札幌市役所で天野副市長から協力団体へ感謝状の贈呈がありました。

自転車ヘルメット普及促進モニター事業

今年から、札幌市と札幌市交通安全運動推進委員会では、「自転車ヘルメット普及促進モニター事業」を実施しています。

この事業は、札幌市中心部の駐輪場を利用している100名をモニターとしてヘルメットを配付するとともに、アンケートも併せて行い着用を促進するもので、当委員会を始め、一般社団法人北海道指定自動車教習所協会、一般社団法人札幌地区家用自動車協会、一般社団法人日本自動車販売協会連合会札幌支部も協賛しています。

子供や高齢者向け、飲酒運転根絶、自転車ルール、ながらスマホの危険性、冬道運転など、各種テーマに対応しています。

昨年度の貸出は197件、視聴者延数13,199人。お気軽にお問い合わせください。



詳しくはこちらから

会員異動状況

退会

区分	団体名	退会日
賛助会員	サッポロビール株式会社北海道本部	令和6年3月31日
賛助会員	一般社団法人北海道指定自動車教習所協会	令和6年3月31日

※一般社団法人北海道指定自動車教習所協会は、正会員として引き続き交通安全運動にご賛同いただいております。

交通事故死ゼロ運動顕彰

2月	3月	4月	5月	6月	7月(予定)
3000日▶鶴居村 2000日▶豊富町 豊頃町 1000日▶日高町 当麻町 700日▶松前町 500日▶黒松内町 幌延町 帯広市 200日▶旭川市	5000日▶礼文町 2500日▶上川町 1000日▶七飯町 幌加内町 清水町 500日▶三笠市 余市町 平取町	1000日▶仁木町 占冠村 苫前町 湧別町 広尾町 500日▶札幌市南区	2000日▶猿払村 1000日▶小平町 枝幸町 500日▶北広島市	5000日▶上砂川町	1000日▶白老町 乙部町

当委員会では、交通事故死ゼロ日数が基準日数に達した市区町村に表彰状と併せ副賞を贈呈していますが、この度、基準日数の見直しを行いました。
4月からは、改正後の基準日数となっております。

【交通事故死ゼロ運動顕彰の基準(改正後)】

市区町村人口	表彰状贈呈	副賞贈呈
3万人以上	500日(以降500日毎)	銅1,000日、銀3,000日、金5,000日
3万人未満	1,000日(以降1,000日毎)	銅3,000日、銀5,000日、金10,000日

「交通事故死ゼロ・カウント キューブ」を製作しました

交通事故死ゼロ運動顕彰で従来、副賞として贈呈していた「楯」を、令和6年度から廃止し、新たに道産木材を使用した「交通事故死ゼロ・カウントキューブ」を製作しました。製作は遠軽町に委託し、台座には「せん」、「えんじゅ」、「かつら」、キューブには「カバ」など遠軽町産の木材を使用しています。

この交通事故死ゼロ・カウントキューブは、6個のキューブを組み合わせて数字を作ることにより、交通事故死ゼロ日数を表示するもので、1つ目のキューブには、金賞、銀賞、銅賞の達成日を記載した「達成プレート」を貼付して贈呈します。



最初の贈呈は、6月4日、交通事故死ゼロ5000日を達成した上砂川町に贈られ、奥山光一町長から「交通安全の機運を高めることに取り組む6000日を目標にまい進する」とお話しがありました。

このキューブを、住民窓口や公共施設などに置いていただき、住民のみなさんと一緒に次なる目標に向け、交通安全に取り組んでいただくことを強く願っております。



北海道交通安全母の会 会長交代

5月29日、北海道交通安全母の会通常総会が開催され、会長が蔵田愛子氏(岩見沢交通安全母の会会長)から岡部温子氏(苫小牧市交通安全母の会連合会会長)に代わりました。蔵田会長は、10年に渡り会長を務められ、地域における交通安全運動にご尽力いただきました。永年のご功勞に感謝いたします。

交通安全

探訪

当別町（石狩振興局）

「交通事故のない社会の実現」を達成するため、 「町民の交通安全意識を高め、 交通事故防止の徹底を図る」

当別町は石狩管内の北東部に位置し、肥沃な大地による米、麦、野菜、花卉などの農業を主産業に、北部は「道民の森」を含む山林が面積の6割以上を占める緑豊かな田園都市です。

近年では、JR学園都市線の「ロイズタウン」駅が新設され、ロイズタウン工場に併設するロイズカカオ&チョコレートタウン開業と、この駅から近隣施設となる当別町の名産品直売所である「北欧の風道の駅とうべつ」の相乗効果により観光人数が増加しています。

交通安全対策の取り組み状況

当別町交通安全推進委員会を中心に当別町交通安全協会、当別町交通安全指導員会、札幌方面北交通安全運転管理者協会第8支部など町内の関係団体が協力し、春・夏・秋・冬

の交通安全運動期間中の児童・生徒の通学路における登校時街頭指導や夜間に幹線道路でパトライト運動を実施しています。

セーフティコールでは、毎回町民が約100名参加して旗の波作戦を行い、交通量の多い国道沿いで「スピードダウン」を呼びかけています。また、秋（9月）のセーフティコールは当別高等学校の交通安全週間と合同で開催し、当別高等学校の生徒による自作の鉢植え（農業クラブ）や焼き菓子（家庭クラブ）、メッセージカード（生徒会）をドライバーに手渡し交通安全を呼びかけています。

啓発活動は、バイクの日（8月19日）に二輪車に対する交通安全街頭啓発を札幌方面北警察署と連携して実施した他に町内の高齢者クラブ連合大会時に啓発用クリアファイルに参加者全員に配布し実施しています。交通安全教室の開催状況としては、小学校や認定こども園、老人ク

ラブなど要望に応じて開催し、令和5年度は11回で395名が受講しています。



当別高等学校生徒による啓発活動

除排雪重機運行に係る交通安全教室

豪雪地帯である当別町では、本格的な降雪時期となる前の11月上旬に除雪業者と協力して小学1年生を対象に除雪重機の死角となる危険個所に近づかないように交通安全教室を開催しています。巨大な重機を目の当たりにして驚いているだけではなく、運転手から見えない場所を近くで確認し、除排雪重機に直接触れる事ができ子供たちにとって貴重な体験となっています。



除排雪重機運行に係る交通安全教室

最後に

当別町は令和3年2月3日から交通事故死ゼロを継続し、令和5年11月1日に交通事故死ゼロ1000日を達成しました。しかし、北海道交通安全推進委員会から表彰を受けた直後の11月26日に、凍結路面による単独スリップ事故で運転手が標識柱に衝突し亡くなる事故が発生しました。

町民にとって、改めて交通安全について見つめ直す事故となり、これからは、町民一丸となって交通事故のない社会を実現するため取り組んでいきます。

各地区トピックス14CH

後志地区 余市町



余市町交通安全推進協議会では、春の全国交通安全運動期間中、余市町大川小学校前の国道5号歩道上において旗振り活動を行い、参加者自身に対して事故防止の気の引き締めをすると共に、付近の通行車両や自転車利用者に対しスピードダウンや飲酒運転撲滅など交通違反及び交通犯罪の抑止を呼びかけました。

日高地区 えりも町



えりも町では、4月5日に灯台公園沿い国道にて「旗の波作戦」を実施し、交通安全指導員をはじめ町民約50名が参加し、ドライバーに安全運転の呼びかけを行いました。

また、4月9日には、新入学児童への交通安全対策事業として、えりも町商工会女性部から寄贈していただいたマスコット付き鈴の配布を行いました。

胆振地区 苫小牧市



苫小牧市交通安全推進委員会では、毎年夏に苫小牧西港フェリーターミナルにて来道者に向けたフェリー水際作戦街頭啓発を行っています。夏から秋にかけては観光・レジャー型交通事故が多くなりやすく、さらに苫小牧市では下半期に増加する傾向があることから、関係団体やフェリー関係各社と連携を図りながら交通安全を呼びかけています。

根室地区 根室市



根室市では、6月8日から17日までの10日間「春の行楽期の交通安全運動」を実施しました。交通安全運動が始まるのを前に、6月7日には、根室市、根室振興局、根室警察署、根室交通安全協会などの団体約100人が参加し出動式を行いました。その後、国道44号線交差点で旗波運動を行い、ドライバーや歩行者に交通ルールとマナーを呼びかけました。

みなさまのおかげで
創業70年を迎えました。



白馬堂印刷株式会社

代表取締役 花井久美子
取締役社長 後藤 孝俊

本社
〒064-0823 札幌市中央区北3条西25丁目
TEL.011-621-1471 FAX.011-621-8551
発寒工場
〒063-0829 札幌市西区発寒9条14丁目516
TEL.011-665-8881 FAX.011-669-2656

みなさんの応援を、頑張る子供たちの未来へつなぐ 交通遺児育英事業に取り組んでいます。

交通遺児育英事業は、交通事故でお父さんやお母さんを失った子供たちに、いつもたくさんの方々が応援していることを胸に、未来に向かって元気に羽ばたいてほしいとの願いを込めて、これまでの奨学金に、令和5年4月1日から、お見舞金と給付金による応援を加え、3つの応援を行っています。

**フレンドリー
通信 67号**

お知らせ

ゆっくり走ろう北海道とフレンドリー通信は今月号より合併いたしました。

3つの応援

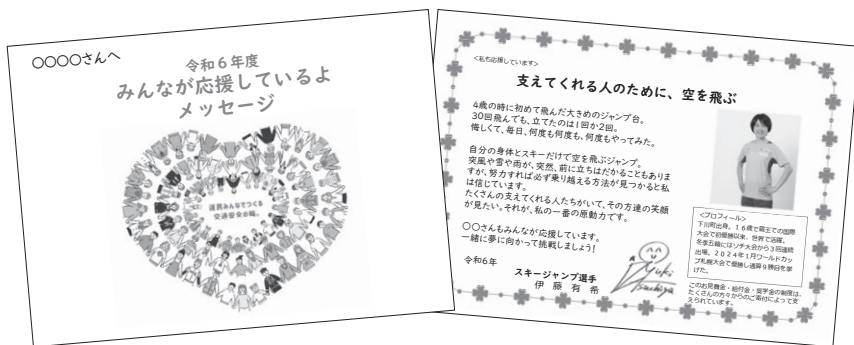


- お見舞金**
 交通事故により父母等を失ってから1年以内で、かつ父母等を失った日において18歳未満の方にお見舞金をお渡しします。
 ・お一人12万円を支給します(返還不要)。・随時、申請を受け付けます。
 ・2023年4月1日以降に父母等を失った方が対象です。
- 給付金**
 交通事故により父母等を失った方、または重度後遺障害となった父母等が就労できない家庭にある方のうち、乳幼児から中学生・中等教育学校生(前期)までの方に、健やかな成長を応援する給付金を支給します。
 ・年間12万円を2回(6月、12月)に分割して支給します(返還不要)。
 ・必要書類を添付の上、原則、毎年4月末日までに申請してください。
 ※申請期日を過ぎて希望がある場合にはお問合せください。
 ・保護者の方の所得などに関して審査を行った上で決定します。
- 奨学金**
 無利子貸付/3割免除あり
 返還が必要です
 交通事故により父母等を失った方、または重度後遺障害となった父母等が就労できない家庭にある方のうち、次の学校に入学又は在学する方に、奨学金として無利子貸付を行います。

対象学生	普通奨学金(月額)	入学奨学金
中学生、中等教育学校生(前期)	1万円~2万円(選択)	なし
公立高校生、中等教育学校生(後期)、高等専門学校生	1万円~3万円(選択)	10万円
専修学校生(高等課程)	1万円~4万円(選択)	15万円
私立高校生	1万円~4万円(選択)	25万円
専修学校生(専門課程)	1万円~4万円(選択)	25万円

 ・貸付を受けた奨学金の7割を返還した時点で、残りの3割は返還免除となります。
 ・必要書類を添付の上、原則、毎年4月末日までに申請してください。入学奨学金も同様です。
 ※申請期日を過ぎて希望がある場合にはお問合せください。
 ・保護者の方の所得などに関して審査を行った上で決定します。

上記の3つの応援は、道内に居住する方が対象です。



お問い合わせ・申請書の提出先
公益社団法人 北海道交通安全推進委員会

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1-23 第2道通ビル6階
 ☎ 011-221-6666(平日8:45~17:30) ✉ safety@slowly.or.jp

詳細や必要書類を必ずホームページ等で確認してください。

<https://www.slowly.or.jp>



新しい3つの応援をスタートさせた令和5年度は、「お見舞金」として5名、「給付金」として41名の子供たちを支援いたしました。令和6年度の応援もスタートしています。

また、子供たちには、毎年「みんなで応援しているよメッセージ」を給付に併せて贈ることとしており、今年度は、スキージャンプ選手の伊藤有希さんに激励の言葉をいただきました。

交通事故による死者数は減少してきたものの、子供たちが負う心の傷は今も昔も変わりはありません。

今後ともご支援をいただいている皆様や、本道の交通遺児を支援している団体と一丸となり、子供たちが明るい未来を歩めるよう、しっかりと応援してまいります。

皆様からのご支援に心から感謝します。

(敬称略)

受領月	寄付者名	種類	区分	寄付金額 (単位：円)
1月	泊村役場	特定	募金(箱募金)	1,847
	全日本空輸株式会社	特定	寄付	500,000
	株式会社アベックス	特定	寄付	10,786
	小林豊子きもの学院北海道本部 北海道講師会	特定	寄付	300,000
2月	匿名	特定	寄付	100,000
	室蘭地方中古自動車販売協会	特定	寄付	20,000
3月	植村 泰也	特定	寄付	2,000
5月	一般社団法人 空知建設業協会	特定	寄付	331,000
	石狩市花川北交通安全母の会	特定	寄付	80,000
6月	八剣山パークゴルフ場	特定	寄付	85,000
	植村 泰也	特定	寄付	4,000

一般社団法人空知建設業協会
空知建設業協会「建設産業安全大会」が深川市内で約300人の出席のもと盛大に開催され、その席で、当委員会に対しご寄付をいただきました。日頃から、建設業界において交通事故の根絶に向けて大きな貢献をいただき、また、毎年ご支援をいただいておりますことに感謝し、砂子邦弘会長に感謝状を贈呈いたしました。



小林豊子きもの学院北海道本部・北海道講師会
小林豊子きもの学院新年交礼会の席上で、信田豊愁名誉学院長から、チャリティイベント「呉美の市」の収益金の一部をご寄付いただきました。長年にわたりご支援いただいていることに改めて敬意を表し、感謝状を贈呈いたしました。



八剣山パークゴルフ場
札幌市南区の八剣山パークゴルフ場でチャリティ大会が開催され、表彰式にて、ご寄付をいただきました。大会の開催にあたり、毎年、参加者から募金を集めてくださっており、今回で18回目になります。皆さまの交通安全への思いをしっかりと受け止め、高島政弘社長に感謝状を贈呈しました。



寄付金募集のお願い

当委員会の目的、事業や活動に賛同していただける皆さまからのご寄付を募っております。いただいた寄付金は、交通事故防止のため各地で展開されます交通安全啓発事業や交通遺児育英事業に有効に活用させていただきます。なお、当委員会への寄付金は、税制上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

種類	内容
一般寄付金	寄付者が寄付金の使途を特定しないもので、寄付金総額の50%以上は公益事業に使用することとしています。
特定寄付金	寄付者があらかじめ寄付金の使途を特定するもので、基本的には、公益事業のうち、交通遺児育英事業や交通安全活動を支援する事業をいずれか又は両方を特定し、両方であればその割合も特定することとしています。

入会のご案内

当委員会の事業活動にご理解とご賛同をいただける団体・法人の皆様の入会を随時受け付けています。

当委員会は、これまで飲酒運転の根絶をはじめ、交通道德の向上と交通事故防止のための交通安全運動に積極的に取り組むほか、交通遺児育英事業を推進して、道民福祉の増進に寄与することにより、交通事故のない明るい北海道を築くことを目的として、様々な公益事業を実施しております。

会員の種別	議決権	会 費
正 会 員	あり	■自動車関係、産業経済団体及び法人 年間3口以上：30,000円以上 ■その他団体及び法人 年間1口以上：10,000円以上
賛助会員	なし	■年間1口以上：10,000円以上

【会員の特典】

- 当委員会会報「ゆっくり走ろう北海道」の送付（年2回発行）
- 4期40日の交通安全運動や飲酒運転根絶のチラシ・ポスターの送付
- 各種イベントや研修会などへのご案内
- 研修会における講師派遣相談や交通安全DVDの貸出
- ホームページやSNS等における会員情報（交通安全活動事例等）のご紹介

【お申込方法】

当委員会にお問合せいただき、申込書に必要事項をご記入の上お申込みください。

入会お申込み後、当委員会にて所定の手続きを経て、後日ご入会決定通知書を送付いたします。



「IT」で「幸せ」に挑む。



株式会社HBA

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1番地8
 TEL:011-231-8301 FAX:011-281-0915
www.hba.co.jp

令和6年8月号

公益社団法人 北海道交通安全推進委員会

札幌市中央区北5条西6丁目1-23 第二道通ビル6階 電話(011)221-6666 FAX(011)221-7873

URL: <https://www.slowly.or.jp> e-mail: safety@slowly.or.jp

公式ホームページ / YouTubeチャンネル / X(旧Twitter) / Facebookページ [北海道交通安全推進委員会 検索](#)